

### Ⅲ 点検・評価の結果

#### 1 千葉市教育委員会による自己評価

##### (1) 学校教育

学校教育分野については、平成21年3月に策定した学校教育推進計画に基づき、各種施策を進めており、この計画では、90に及ぶ達成指標を定め、毎年度、施策の進捗状況を、数値化して市民の皆さんにお示しするとともに、具体的なアクションプランについての評価を行っているところです。

##### ①わかる授業を推進し自ら学ぶ力を身に付けるとともに、豊かな心と健康な体をはぐくむ

##### ○学ぶ意欲と確かな学力をはぐくむ教育の推進

学力については、昨年度に実施した全国学力・学習状況調査においても、調査結果が全国平均や千葉県平均を大きく上回るなど、良好な状況にあると言えます。これは、日頃の子どもの頑張りと、教職員の努力によるところが大きいことは言うまでもありませんが、学校としての取組みにも、一定の効果を上げていると考えています。

具体的には、学校図書館指導員の配置や朝読書による読書活動の充実は、豊かな心を育むとともに、国語力の向上に効果を上げており、今後も各教科等において調べ学習などの多様な読書活動の充実を図り、読書の幅を広げることが一層大切になるものと考えています。

また、理数教育においては、少人数指導教員や理科教育サポーター、学力向上サポーターの配置が、理科・数学離れの対応として、大きな効果を上げています。

さらに、授業にICT機器<sup>1</sup>を効果的に活用することは、わかる授業を推進するために、非常に有効であることが明らかになってきています。今後も、市の研究指定校の実践内容や成果を各学校に広め、さらなるICT機器活用を推進していきます。

一方で「学校の勉強が好きだ」と肯定的に回答する中学2年生の割合が51%と、小学5年生の74%と比較すると伸び悩んでおり、その要因の一つとしては、新中学校学習指導要領が全面実施され、学習内容が増加したことにより、勉強に対する難しさを感じている生徒が多くなったと考えられます。

今後は、わかりやすい授業、魅力ある授業を定着させていくため、積極的に現場を計画訪問し、目標値に近づけていきたいと考えています。

##### ○体力向上の推進と健やかな体の育成

体力の向上に関しても、昨年度課題となっていたボール投げを、重点種目として取り上げて指導したことにより、小・中学校ボール投げの数値が向上しました。その結果、

---

<sup>1</sup> Information and Communication Technology の略で、コンピュータや情報通信ネットワーク（インターネット等）などの情報コミュニケーション技術のこと。ITと同義的に用いられるが、コミュニケーションの重要性を加えた表記となる。日本語にすると「情報通信技術」と訳される。

新体力テストにおいて、小学校の各学年・種目で全国平均を上回ることができました。これも、体育や保健体育の授業の充実に加え、栄養バランスに配慮した学校給食の完全実施などが、体力向上など良い結果に結びつく要因の一つとなっていると考えています。今後も、学校における子どもの体力向上に関する検証の際には、運動習慣等を含む実態把握を行い、体力向上を図る取り組みをを一層推進することが必要であると考えています。

また、12歳（中学1年生）のDMF指標（永久歯の1人あたりの平均むし歯指標）が目標値を達成しました。口腔衛生指導及び歯と口の啓発事業等を通し、歯磨きの大切さが、子どもや家庭に浸透してきた結果と考えられます。

## ②家庭の教育力を高め、地域の教育力を生かす

### ○地域の教育力を活用した家庭・学校への支援の充実

学校と地域との関わりについては、すべての市立小・中学校においてセーフティウォッチャーが25,271人登録されており、地域ぐるみで子どもたちの安全を見守る体制があります。

また、「子どもの夢をはぐくむ学校サポート推進事業」をはじめとする、地域の方々による学校支援が継続的に実施されているとともに、地域に開かれた学校づくりを一層推進するため、学校評議員会の開催及び学校評価を実施し、ホームページなどによる学校情報の発信など、学校と地域、家庭が連携した取組の充実に努めてきました。

## ③子どもの学びを支える教育環境を整える

### ○学校設備等の充実

学校施設の耐震化については、当初計画を1年前倒しし、平成26年度までの完成を目指しており、屋内運動場の非構造部材の耐震化についても、平成27年度までの完了を目指して取り組んでいます。

教育用コンピュータの整備については、真砂東小学校の移転に伴い校内LANの整備を実施しました。これにより、すべての小・中・特別支援学校で校内LANが利用可能となりました。また、全体の整備率向上については、現行システムの利用促進と評価をする必要があることから検討課題となっていますが、整備率の向上と合わせて、最新のタブレット型端末の教育効果などについての検証と更なる学校教育のICT化に向けた整備を進めるため、予算の確保に努めていきます。

### ○学びの連続性を重視した教育の推進

「1小1中学校区における連携の在り方」について、川戸小学校、川戸中学校において研究を進めるとともに、「小中が連携した生きる力を育む指導の工夫」について研究し、学びの連続性を考え、前年度の成果や反省を踏まえ、小中教員による合同授業を実施しました。また、モデル校等で小中一貫教育標準カリキュラムを運用し、改善点の把握に努めています。

なお、平成２５年度に実施した「千葉市立高等学校改革の評価・検証～最終まとめ」において、市立千葉高校と市立稲毛高校は、進路ニーズと教育ニーズの多様化に適切に対応できており、伝統とそれぞれの改革の特色が調和している、熱心な教職員の指導と生徒の積極的な姿勢、教育活動に対する行政の支援など教育効果が上がっていることを受け、本市の高等学校改革は良好な成果を収めています。

#### ④意欲と指導力のある教職員の確保・育成と教職員が職務に専念できる体制を確保する

##### ○教職員の資質・指導力の向上

教員の資質向上のため、教育センター・養護教育センターにおける夜間講座・出前講座及び休日講座など各種研修の充実に努めました。

また、昨年度、評価委員より提案のあった、教職員の基本研修・専門研修等の研修後の人材活用システムについてですが、平成２５年度に実施した１０年目・２０年目経験者研修修了後のミドルリーダーの教職員に、若手教職員研修の講師をしてもらう等の人材活用に努めました。

さらに、中堅教職員をサポートする体制づくりについてですが、主任級の教職員が若返っている中、平成２６年度より中堅教職員向けの、新任学年主任研修及び新任研究主任研修を開講しました。

今後も、教職員の研修システムの充実に向けて検討を進めます。

##### ○教職員の支援体制の充実

子どもたちと触れ合う時間をより確保するために、学校現場における教職員の在校時間調査を継続的に行うとともに、職員会議の時間短縮など効果的な勤務負担軽減の方策を検討・周知し、学校現場が主体的に勤務負担軽減を行えるよう取り組んでいます。

#### ⑤多様な教育的支援を充実させるための教育環境整備を一層進める

##### ○特別支援教育の推進

通常の学級に在籍し、緊急な対応を要するＡＤＨＤ児等が在籍する学校に対して、前期３０人、後期３０人の特別支援教育指導員を配置し、子どもの学習や生活状況の改善及び校内支援体制の整備支援を行いました。これにより、多くの児童生徒に学習、行動面で改善が見られました。

##### ○いじめ防止対策推進法への対応

平成２５年度にいじめの早期発見・早期対応マニュアルを改訂し、「いじめ防止対策推進法」の内容に沿った「いじめ対応マニュアル」報告書を作成し、多くの事例を紹介するとともに、すべての教員の参考となるように工夫しました。

また、「いじめ防止対策推進法」施行、国の「いじめ防止基本方針」の通知を受けて、教育委員会が「学校いじめ防止基本方針策定の手引き」、「モデル」を作成し、各学校に周知を図りました。

## (2) 生涯学習

生涯学習分野については、平成23年度から「第4次千葉市生涯学習推進計画～学びあい、支えあい、地域が輝くまち・千葉市を目指して～」に基づき各種施策を進めています。

### ①学習成果が「生きる」地域づくりを進める

学習活動を通して培われた学びの成果は、市民が主体となって展開される家庭教育の支援や放課後の子どもの居場所づくり等の事業、生涯学習施設でのボランティアの活用を生かされており、地域の教育力の向上につながっています。

昨年度、評価委員よりご提案いただいた、各施設と学校・NPO・企業等との連携事業の拡大につきましては、中央図書館・生涯学習センターでの主催事業や公民館での青少年向け事業において、講師や指導員の派遣等の連携を進めました。また、ビジネス支援として、中央図書館に地元企業の紹介コーナーを設ける等の取組みを進めました。

一方で、放課後子ども教室の年間延べ参加児童数が昨年度と比較し、10,945人減少しました。事業開始から7年が経過し、事業の中心を担うコーディネーターの高齢化及び後継者不足等が、実施日数減少の要因になっていると分析しています。

これまで、区別情報交換会の開催等の運営支援や、コーディネーターの配置基準を改正する等の負担軽減により、事業内容や実施日数の拡充に努めてきましたが、今後は、地域のボランティアを主体とするこれまでの運営形態や手法を抜本的に見直し、子どもルーム等との一体的な運営も視野に入れて、こども未来局との連携に努める等、国や他都市の動向を注視しながら、子どもたちの居場所づくりを総合的に検討していきます。

### ②市民生活や地域社会の課題を「学ぶ」機会を提供する

文化財保護分野では、多種多様な文化財を価値・内容によって適切な保護措置をとるとともに、教育資源として活用するため、博物館と埋蔵文化財調査センターが連携して普及啓発事業の充実に努めています。有形・無形文化財については、毎年、本市の指定や登録を進めることで後世へ伝承していきます。

千葉の歴史や文化については、再認識や啓発のきっかけづくりに努め、市民の郷土愛醸成を図り、幅広い年齢層の市民に文化財の価値と内容を伝えて歴史や文化に親しめるような施策を進めています。

さらに、世界有数の貝塚である加曽利貝塚の国特別史跡指定を目指し、出土資料の再整理及びソフト・ハード両面の整備を進めるとともに、利用者の利便性向上を確保するため、園内外へ案内誘導標識の設置し、加曽利貝塚の対外プロモーションのシンボルとして活動するオリジナルキャラクターの公募等の事業を行いました。

今後も、市民意識醸成のため欠かせない千葉の歴史や文化を体現する文化財を再認識してもらうために、幅広い年齢層の市民に文化財の価値と内容を伝え、歴史や文化に親しめるような施策を推進していきます。

### ③学びを「支える」環境づくりを進める

生涯学習や社会教育を振興する上で重要な役割を担う生涯学習センターをはじめ、公民館、図書館、博物館等の老朽化した設備を改修するとともに、ソフト面では学習情報の提供や講座等の実施により、学習環境及び学習機会の充実に努めています。

公民館では、利便性と公平性を向上させるため、平成25年10月からインターネットによる施設予約システムを導入し、新規利用の促進と稼働率の向上を図れるよう努めています。

図書館では、特別整理期間の短縮及び隔年実施による開館日の拡大、郷土資料のデジタル化による保存と活用、ホームページの充実など利用者サービスの向上を図ってきました。

今後も、市民ニーズに応え、図書館利用を促進していくため、利便性の向上と資料の充実に図り、各事業の積極的な展開・実施に努めるとともに、ICTを活用した図書館からの積極的な情報発信や学校・地域等との連携の充実・強化を推進していきます。

科学館では、企画展、講座、講演会、プラネタリウム等、時節や来館者層のニーズに合った内容をテーマとした事業を数多く展開し、新規の来館者やリピーター層の拡充につながりました。

今後は、千葉市科学都市戦略のキーステーションとしての役割を果たすため、連携先を拡充し、さらに事業の拡充・発展を図っていきます。

以上のとおり、各施設においては、それぞれの機能を生かし、学習の場の提供や現代的課題・地域課題・市民ニーズ等に対応した多くの事業を実施しており、市民に活用されています。

一方で、公民館は、昭和50年代に数多く建設されたことから、今後、他の生涯学習施設とともに老朽化対策が喫緊の課題であり、今後、公民館等社会教育施設の整備計画等を策定する必要があると考えています。

生涯学習の重要性が高まる中、今後も学習機会の提供や学習環境の整備に引き続き取り組むとともに、一人ひとりの市民の持つ知識や経験が地域づくりに生きる社会の実現を推進していきます。